

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自身のコンディションを把握し、病気と向き合う力、目標の実現に向けて取組む力、 自身を大切に思うとともに、周囲の人を大切に思う心を育む学校 1 一人ひとりの「学ぶ意欲」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を実感することで、治療に立ち向かう心を育てる。 2 病気療養中の児童生徒が、安心して安全に学ぶことで、自身の目標に向けて進もうとする意欲を育てる。 3 さまざまな人とのつながりを通して、自分も他者も大切な存在であることに気づき、お互いを認め合う心を育てる。 4 家庭・病院・関係機関との連携のもと、病弱教育への理解推進を図り、支援学校のセンター的機能を果たす専門性の向上に努める。
--

2 中期的目標

1 病弱教育における切れめのない支援の推進 (1) 入院中の学習機会を積極的に捉え、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図る。 (2) ICTを積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程を充実させることで「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。 (3) 病院所在地の市町村教育委員会と連携し、研修会等から情報を収集しながら、児童生徒の教育活動に役立てる。 (4) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を進める。 (5) 病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする。 2 病気のある児童生徒への支援の充実を図るための専門性の向上と支援の継承 (1) センター的機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを毎年企画実施し、地域の学校の教育力の向上に寄与していく。 (2) 本校の実践を報告集として研冊子にまとめることで、支援の継承を進める。 (3) 本校にある筋ジストロフィーに関する支援内容及び支援のノウハウを、地域の学校に伝える。 (4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力、他府県の病弱支援学校との共同研究、大阪府の病弱教育の推進等、自校の専門性向上を図るとともに病弱教育全体の発展に寄与するよう努める。 3 安心・安全な学校づくり (1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、児童生徒の現状を理解し、主治医、保護者と丁寧に協議した上で、児童生徒にとって安全・安心で最善のものとなるよう努める。 (2) 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒の実態に合わせた活動内容を作成し実践する。 (3) 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」が、在籍中及び復学後の支援や進路指導に活用できるよう部内で十分共有を進める。 (4) 児童生徒理解及び人権の擁護、個人情報保護、災害時の対応等、児童生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、校内体制を整備するとともに、研修等を活用し、教職員の資質向上を図る。 (5) 会議のスリム化と情報の円滑な共有による時間外勤務の削減を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見																														
※本校は児童生徒、保護者、教職員、医療関係者を対象に実施 【アンケート回収率】 <table><tr><td></td><td>本校・訪問</td><td>阪大</td><td>精神</td><td>滝井</td><td>枚方</td></tr><tr><td>児童生徒</td><td>80%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>80%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80%</td><td>78%</td><td>—</td><td>67%</td><td>80%</td></tr><tr><td>病院関係</td><td>80%</td><td>74%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>67%</td></tr><tr><td>教員</td><td colspan="5">97%</td></tr></table> 【学習指導等】（ ）内は前年度比 ・「学校は楽しい」に対する肯定的評価は、児童生徒 89%(▼7P)、保護者 97%(△1P)と、児童生徒の評価が、令和2年(91%)、令和3年(96%)と比べ、高い水準ではあるが、低下している。その他の児童生徒の項目で低下が見られたのが、周りの人とのつながりに気を配ってくれているか、行事は楽しく参加できるよう工夫されているかという項目である。今年度も、コロナウイルスの影響で、行事等が延期、縮小されたこと、病棟内での行動制限などが影響していると考え。授業の内容については、肯定的評価は、保護者 100%(±0P)に対し、児童生徒は 95%(△2P)とさらに上昇した。教員が、児童生徒の実態をより深く理解し、学習空白を埋められるよう、限られた在籍期間の中で授業内容の精選に努力している結果であると考え。 【生徒指導等】 ・昨年度より、力を入れてきた進路指導・キャリア教育について、「自分の将来や進路について考える機会がある」に対する肯定的評価は、児童生徒 65%(△8P)、保護者 86%(△9P)で、児童生徒の評価が昨年度より上昇している。病気のある児童生徒の将来の進路やキャリア形成に関する不安を少しでも取り除けるよう、丁寧な指導を継続していきたい。 【学校運営等】 ・「学校組織は有効的に機能している」については、肯定率 80%(△6P)と上昇が見られたが、「学校運営に、教職員の意見が反映されている」については、肯定率 63%(▼6P)となり、昨年度より低下した。これは、教職員の意欲を組織としての力とし、十分に生かし切れていないということである。 ・「学校は、病棟と連携して教育活動を行っている」への肯定率は、87%(△2P)、「子どもの身体や心の状態を理解し、適切な指導を行っている」は、93%(△7P)であり、学校への信頼感が増していることが理解できる。病弱支援学校の学校運営に関わる重要な要素であると考え。		本校・訪問	阪大	精神	滝井	枚方	児童生徒	80%	100%	100%	100%	80%	保護者	80%	78%	—	67%	80%	病院関係	80%	74%	100%	100%	67%	教員	97%					第1回(6/21) ○学校経営計画について ・「進路について考える機会がある」に対する肯定的回答が 56%と低いので、計画を進めていく。 ○センター的機能としての外部へのセミナーについて ・滝井分教室と関西医科大学総合医療センター医師とで行う「滝井セミナー」、阪大分教室と阪大病院医師とで行う「病気療養児の教育研修会」などを企画している。 ○ICT機器の導入について ・他の校種よりも病弱支援学校の方が進んでいるように思う。今後もより力を入れて進めていただきたい。 第2回(11/8) ○学校経営計画の進捗状況について ・生徒主体のプログラミングの学習会は、生徒の主体性を養ういい取組であるので、ぜひ続けていって欲しい。 ・ホームページも拝見し、ICTの取り組みでは素晴らしい実践をしているので学校経営計画にものせて欲しい。 ・Jアラートの訓練について、刀根山支援でも指導していただきたい。また、避難する際に車いすでの校外で避難できるルートの確認もお願いしたい。 第3回(2/14) ○R4学校経営計画評価案について ・「学校運営に教職員の意見が反映されている」がマイナス6ポイントになっているのはなぜか原因を見つけて欲しい。 ・リーディングスタッフの派遣回数10回をめざすとなっているが、実績では23回行っているので結構行っていると思われる。 ・「授業はわかりやすく楽しい。」は評価指標で「90%を維持する」なので95%なのに○であるが、◎の基準は数値的にはどうなるのか。95%であれば◎にしてよいと思われる。 ○R5学校経営計画について ・(4)の進路に関しては、支援学校の中でも刀根山は転出入の動きが大きいし、他の支援学校とは違ったところがある。分教室も多く刀根山の場合は数値だけでは測れないところもあると思うので、数字だけでなく実際に丁寧に行う教育が大切で学校教育自己診断だけでは測れるものではないと考える。
	本校・訪問	阪大	精神	滝井	枚方																										
児童生徒	80%	100%	100%	100%	80%																										
保護者	80%	78%	—	67%	80%																										
病院関係	80%	74%	100%	100%	67%																										
教員	97%																														

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3 年度値]	自己評価
1 切れ め の な い 支 援 の 推 進	(1)入院中の学習機会を積極的に捉え、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図る。 ア 教科教育を中心とした授業力の向上	(1) ア・準ずる教育を行う支援学校として、学習指導要領に則った教科教育の充実を図る。そのため、部署横断的に教科会を実施し、各教科で指導案を検討したり、研究授業会を実施する。	(1) ア・部署横断的に全体教科会を年間に2回開催し、指導案の検討・作成を行う。 ・各教科で年1回研究授業会を実施する。 ・児童生徒の学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定率 90%以上を維持する。[93%]	・研究教科会は、全体会としては7月21日に開催し、各教科別の教科会は、随時 Web 会議システムなどを利用し実施した。第2回については、コロナウイルスの関係で延期となったが、令和5年3月27日の実施予定である。(○) ・今年度は、初めての試みとして、1つの教科(理科)で研究授業会を実施することができた。(△) ・「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的評価は、95%で目標を達成することができた。(○)
	(2)ICTを積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程を充実させることで「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。 ア ICTを活用した授業交流学習の推進	(2) ア・入院中の児童生徒は活動を制限されることが多いので、ICT機器を活用してWEB交流会やWEB社会見学等を実施し、他者との交流を楽しむとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成し社会に対する関心意欲を高める。 ・パソコン交流会等を活用して、授業の成果を発表する機会を設ける。 ・生徒を対象に、外部講師を活用してプログラミング学習を行う。また、全病連ロボットプログラミング大会にも参加する。	(2) ア・各分教室間でのWEB交流会、また、WEB社会見学を年間にそれぞれ1回実施する。 ・全病連主催のロボットプログラミング大会に参加し、上位入賞をめざす。 ・パソコン交流会を年間に1回開催し、外部の参加者を招待する。 ・外部講師を活用したプログラミング学習会を年間に1回以上開催する。[3回]	・今年度は、大学生とのWEB交流会(2回)、また、WEB社会見学(天王寺動物園)、ゆめ水族園(セイコーエプソン共催)、オンラインツアー(沖縄、北海道)、台湾とのオンライン学習、バーチャルオーシャンプロジェクト、ラグビーリコーブラックラムズ東京との交流への参加等について実施することができた。それぞれの会では、児童生徒が積極的に質問をし、楽しむことができた。(◎) ・今年度も2チームがエントリーし、上位入賞を目指したが、残念ながら地区予選で敗退した。生徒たちの戦術に対するアイデアをプログラミングに生かす技術的な向上の場面が多く見られた。(○) ・パソコン交流会(高校生によるパソコン教室)では、今年度、外部からの来校での参加、また、オンラインでの参加を募り、総数50名ほどの参加をいただき、大変盛況であった。(◎) ・今年度は、生徒の状況やニーズに応じ、外部講師を活用したプログラミング学習会は、1回の実施であった。(○)
	(4)児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を進める。 ア 地域校へのスムーズな移行とキャリア教育の充実	(4) ア・進路マニュアルの改訂と進路内規を策定するとともに、地域校と連携しながら、一人ひとりの状況を見据え、個別の相談支援を行うなど丁寧な指導を行う。	(4) ア・児童生徒の「自分の将来や進路について考える機会がある」に対する肯定的評価65%以上をめざす。[56%]	・進路指導が必要な生徒に対し、進路講話(CIL豊中、わをん、OKIワークウェル、スクラム、本校卒業生)を積極的に実施することができた。また、1月には、初めて、中学部の生徒に対し、外部講師による進路講演会を実施することができた。児童生徒の「自分の将来や進路について考える機会がある」に対する肯定的評価は、65%で昨年度より9%上昇した。(◎)
	(5)病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携を	(5)	(5)	

	コーディネートする。 ア 病院・地域校との連携推進	ア・分教室の授業見学等を通じて地域校・病院との連携を推進する。	ア・分教室での児童生徒の授業等の様子や指導方法について、地域校や関係者に対し授業見学を 10 回以上実施する。[11 回] また、必要に応じてリモートによる引継ぎ等も実施する。[11 回]	・分教室への立ち入りが制限された中であったが、地域校や関係者への方の授業見学を随時実施した。 [8 回] 地域校の担任への引継ぎでは、必要に応じてリモート等を利用し行った。[13 回] (○)
2 専門性の向上と支援の継承	(1) センターの機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを毎年企画実施し、地域の学校の教育力の向上に寄与していく。 ア 病院と連携した研修の実施	(1) ア・各部署において、関係病院と連携した学校主催のセミナーを実施し、府全体の支援教育力の向上を図る。	(1) ア・WEB 等も活用して、4 部署で 4 つのセミナーを実施する。総参加者数 300 人以上をめざす。 [300 人] ・コロナ禍において中断されていた病院との連絡会を再開すること等で病院の学校教育自己診断における学校との連携に関する項目の肯定率 80%以上を維持する。[85%]	・開催を計画したセミナーは、コロナウイルスの影響により 1 部署で中止となったが、その他の部署で実施することができた。[滝井セミナー598 人、阪大分教室セミナー50 人、精神分教室セミナー44 人] 多数の参加をいただき、府全体の支援力の向上に貢献できたと考える。また、今年度は阪大分教室のセミナーを再開することができた。コロナウイルス感染防止の為、例年の半数 50 人を参加者とし、セミナーを実施した。(◎) ・中断されていた国立循環器病研究センターとの連絡会を今年度は再開することができた。病院の学校教育自己診断における学校との連携に関する項目の肯定率は、87%であった。(○)
	(2) 本校の実践を報告集として研究冊子にまとめることで、支援の継承を進める。 ア 地域の学校に通う児童生徒への支援の推進	(2) ア・成果を実践報告集にまとめ、本校 HP に掲載することで、地域の小中学校教員の授業力向上に役立てていただく。	(2) ア・令和 4 年度の実践報告集を 3 月末までに作成し、本校 HP に掲載する。	・研修支援部を中心に実践報告集の作成に取り組んでおり、3 月末に本校 HP に掲載予定である。(○)
	(3) 本校にある筋ジストロフィー等に関する支援内容及び支援のノウハウを、地域の学校に伝える。 ア 地域の学校に通う児童生徒への支援の推進	(3) ア・冊子『筋ジスの理解と教育』を活用して、地域の学校に通う児童生徒への支援を広げていく。また、その他の病気に関する本校のノウハウを市町村教育委員会と連携し、要望に応じてリーディングスタッフを派遣する。 ・昨年度に改訂した「刀根山スポーツルール集」を、関係校・関係機関等に配布し、地域連携の推進を図る。	(3) ア・後進育成を目指し、冊子を活用した校内研修を実施する。 ・リーディングスタッフ派遣回数 10 回をめざす。 [5 回] ・「刀根山スポーツルール集」の随時改訂を進める。	・校内での冊子の啓発にとどまるに至った。(△) ・センター的機能として、教育相談、研修講師等の業務を 13 校、延べ 23 回の支援を実施した。(○) ・体育祭に向け、体育の授業での取り組みとして、新たな種目の開発に取り組んだ。3 月には、「刀根スポ」に掲載予定である。(○)
	(4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力、他府県の病弱支援学校との共同研究、大阪府の病弱教育の推進等、自校の専門性向上を図るとともに病弱教育全体の発展に寄与	(4)	(4)	

	するよう努める。 ア 発達障がい等のある児童生徒への支援の充実 イ 全国等の病弱支援学校との連携	ア・「わになるシート」の活用について部署を越え、学校全体で進める。また、自立活動とつなげる本校の取組みを推進する。 イ・先進的な取組みを行っている学校を訪問し、病気のある子どもの心のケアと自立活動に関する取組みについて学び、次年度の自校の取組みに活かす。また、今年度の全国病弱虚弱教育研究推進連盟事務局及び大阪病弱教育研究会幹事校として、研修会等の企画運営にあたる。	ア・全国病弱虚弱教育研究連盟全国大会で実践発表を1本以上行う。[R3：Co—MaMe を活用した自立活動の実践] イ・先進校を2校以上訪問する。	・今年度も全病連全国大会で実践発表を行った。[R4：個々のニーズに合わせたプログラミングによる自作教材] また、滝井分教室においても「わになるシート」の活用を進め、自立活動の推進に役立てることができた。(○) ・京都市立桃陽総合支援学校、埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校、東京都立武蔵台学園を訪問し、復学支援、病気のある心のケアと自立活動に関する先進的な取組み等について学び、自校に広く伝達することができた。また、全国病弱虚弱教育研究推進連盟事務局及び大阪病弱教育研究会幹事校として、会の運営にあたることができた。(○)
3 安心・安全な学校づくり	(1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、児童生徒の現状を理解し、主治医、保護者と丁寧に協議した上で、児童生徒にとって安全・安心で最善のものとなるよう努める。 ア 医教連絡会及び保護者懇談会の充実 (3) 「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」が、在籍中及び復学後の支援や進路指導に活用できるよう部内で十分共有を進める。 ア「個別的教育支援計画」の活用 (4) 児童生徒理解及び人権の擁護、個人情報の保護、災害時の対応等、児童生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、校内体制を整備するとともに、研修等を活用し、教職員の資質向上を図る。 ア 人権教育の推進 イ いじめの未然防止 ウ 個人情報の保護及び災害時の対応の強化	(1) ア・各病院と学校との連絡会を充実させるとともに保護者と協議し、行事や教育活動の在り方を検討する。 (3) ア・研修支援部が主体となり、各部署において「個別的教育支援計画」の内容の共有を入院直後に実施し、児童生徒理解及び復学後の地域校への引継ぎに十分生かす。 (4) ア・人権教育に関するセミナー等を年間3回計画し、教職員に積極的な受講の促進をするとともに、人権意識の向上を目指す。 イ・道徳の時間を設定するとともに、いじめの未然防止に取組み、児童生徒が相談しやすい環境作りを行う。 ウ・年度当初に個人情報の取り扱いについて、全教職員で確認を行い、ダブルチェック及び記録簿への記載等について周知徹底を図る。	(1) ア・児童生徒及び保護者「行事は楽しく参加できるよう工夫されている」肯定的評価 85%以上を維持する児生[86%]保[86%] (3) ア・教職員の学校教育自己診断における「個別的教育支援計画」に関する項目の肯定率 90%以上を維持する。[91%] (4) ア・教職員の学校教育自己診断における「人権教育」に関する項目の肯定率 90%以上を維持する。[94%] イ・いじめ防止委員会を前年度と同様に1か月に1回開催する。 ウ・記録簿の不定期チェックを毎学期1回行う。 ・年3回の避難訓練と備蓄	・新型コロナウイルスの影響で、実施形態の変更、延期等があったが、病棟と連携を取り進めることができた。児童生徒の行事に対する肯定率は83%、保護者は、100%であった。残念ながら児童生徒には、昨年と比べると理解が得られていない結果である為、実施に際してより一層十分な説明が必要である。(△) ・活用に重点を置き、様式の一部改訂を行った。「個別的教育支援計画」に関する教員の肯定的評価は、92%で1%上昇、90%以上を維持できた。(○) ・人権研修を年間3回実施した。また、「人権教育」に関する教員の肯定的評価は、90%で、昨年度より4%低下したが、90%を維持することができた。(○) ・いじめ防止委員会については毎月実施することができ、今年度も重大な事案となるものはなかった。(○) ・記録簿の確認は学期毎に1回実施した。(○) ・防災避難訓練を計3回実施した。また、今年度は、

		・防災訓練の実施と災害備蓄品の整備を充実させる。	品の配備を年度当初に行う。	Jアラートについても触れ、児童生徒に周知することができた。備蓄品については、消費期限等の確認やバッテリーの充電状況などを随時点検するとともに、実際の使用方法についても学習した。(○)
	(5) 会議のスリム化と情報の円滑な共有による時間外勤務の縮減を進める。 ア 会議のスリム化と時間外勤務の縮減	ア・Web 会議システムやグループメールを活用して各分教室の教職員への連絡を実施することで、運営委員会等の会議をスリム化し、時間外勤務時間の減少を図る。	ア・WEB 連絡会（毎月1回） ・端末使用に関する技量を高めることで、授業準備等の時間短縮や効率化に努める。	・WEB 連絡会を月1回実施することができた。(○) ・学習支援クラウドサービスを活用し、教員間で教材の共有を進め、授業準備の効率化が図れたと言える。(○)